

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和8年 6月 5日					利用児童数 14名	回収数 9名
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2	1		・お部屋自体は狭いと思う。 ・2階の部屋が、運動するときに少し狭いのかなと思います。可能であれば、1階との交代制があってもいいのかなと思いました。 ・スタッフの方も仰っていましたが、2階は少し狭いと思います。1階は広いですがどのように利用しているのかわかりません。	活動内容や環境設定を工夫し、限られたスペースの中でも安全で充実した活動が行えるよう努めてまいります。 必要に応じて課外活動や地域施設の活用も進めてまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	1		1	・学童と比べて先生の数が多いと思う。(具体的な子どもと先生の比率は覚えていないのですが)ので、それもあり、よく見て下さっていると感じています。	今後とも適切な人員配置を維持し、1人ひとりの発達段階や特性に応じたきめ細やかな支援を継続してまいります。 また、職員の専門性向上に努め、より質の高い支援の提供を目指します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1	1	1	・2階への階段が急で滑りやすいうえ、狭いのでその点は最初から心配しています。情報伝達等の配慮についてはよくわかりません。	階段利用児の見守りを徹底し安全対策の強化に努めてまいります。 また、定期的な点検を行い、事故防止に取り組んでまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	3		1	・子どもたちが過ごしやすいよう整理整頓されていると思います。 ・室内の匂いが気になります。カーベットの匂いでしょうか？ ・やはり、少し狭いように思います。 ・室内は清潔ですが、少しだけ暗い感じがします。心地よいかどうかは子ども次第だと思います。	室内の明るさや衛生環境について見直しを行い、換気や清掃を徹底することで、より快適に過ごせる環境づくりに努めてまいります。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	1			・計画については、こういうところを延ばしていきましよう、よく考えて下さっていて、普段のワークなどにも取り入れて下さっているのだろうと感じています。子どものことがこれからさらに良くなったらいいよねという部分をしっかり見て下さっているところがありがたいです。一方で、困りごとについて、どうしたらいいですかね？どうやっていますか？と聞かれることがあり、それについて聞いてもらうのも対セスなことだと思うのですが、もう少し専門的なアドバイスをこちらが聞けたり方法を知ったりということができたらありがたいです。	今後も一人一人に寄り添い丁寧な観察と適切な支援を継続してまいります。保護者の皆様との連携を大切にしながら、お子様の成長を支援してまいります。 また、保護者の皆様からのご相談に丁寧に対応し、お子様の成長や困りごとに応じた助言や情報提供の充実にも努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	1				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1			・同じ活動が重ならないように変えて下さっていると感じます。 ・月に何度か特別なイベントがあります。また曜日ごとに活動内容が違うので、週に何度か利用する場合も楽しめるのではないかと思います。	温かい言葉をありがとうございます。今後もお子様一人一人が楽しく活動に参加できるよう、活動内容や時間配分、環境設定を工夫しながら支援を行ってまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	2	5		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	1				

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研究会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	4	2	2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8		1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7			2	寄り添ってくださるのを感じます。ありがとうございます。	今後もお子様やご家族に寄り添った支援を心掛け、安心して利用していただける事業所づくりに努めてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		4	2	3	・参加したいかと聞かれると、うーんという感じなのでこのままでも問題はないです。 ・保護者同士の交流の機会は特にはないと思いますが、子ども同士が特に仲が良いという場合以外は特に交流を求めています。	交流会については、ご家族ごとのニーズを踏まえながら実施内容を検討し必要に応じた機会の提供に努めてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7		1	1	そのような場について知りません。	相談体制や相談窓口について、より分かりやすい周知を行い、気軽に相談していただける環境づくりに努めてまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8			1	・配慮の意味が分かりませんでした。 19と同じような質問ではないでしょうか？	設問内容を見直しよりわかりやすく回答しやすいアンケートとなるよう改善に努めてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3	1	2	3	・先生方が家に子どもを送っていく際に、シートベルトをせずに、まず車に乗せ、ドアを開けた状態で次の子どもを載せていくのを見ました。 小さい子の場合、火ってに車の中から飛び出せば事故に繋がるのではないかと少し心配になりました。	貴重なご意見をありがとうございます。送迎時の安全確保は重要な事項であり、職員間で送迎時の対応方法を再確認するとともに、安全な乗降介助やシートベルトの確認を徹底してまいります。今後も研修や確認を行い、保護者の皆様に安心してご利用いただける送迎体制の維持・向上に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	2	1	1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	2		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1		2	事故が起こったことはありません。	引き続き安全確認を徹底し慢心してご利用いただける送迎体制の維持に努めてまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	8	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				長期休みの時のクッキングやファーストフード店で買ってみようという取り組み（お弁当を作らなくてよいので本当に助かってます！）祝日のおでかけ（水族館や工場見学）が親としてはとてもよい取り組みだと思っています。子どもは工作や公園遊びが好きだと言っていました。	祝日や長期休暇中の特別イベントを楽しみにしていただき、大変うれしく思います。今後子どもたちが楽しみながら様々な経験を積めるよう、季節行事や体験活動など内容の充実を図り、思い出に残る活動を企画してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
キッズエール犬山Ⅱ		令和8年 6月 5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	グループ分け、仕切るなど。	・部屋のスペースに限りがあり、児発と小学生が同時間帯に利用しているので、活動によってはパーティションで仕切るなどしてスペースを活用していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	就学前の子と就学後の子の遊び方に差があるので、パーティションで空間を分けている。	・年齢によって遊びや運動量が異なるため、活動の内容を見て年齢別に分けられたり、時差で体を動かす活動を取り入れていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	0		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	1		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズエール犬山Ⅱ			
○保護者評価実施期間	令和8年 5月 10日		～	令和8年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	令和8年 5月 1日		～	令和8年 5月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 6月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育を中心に1人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を実施している。 ・集団活動や個別活動をバランスよく取り入れ、楽しみながら社会性やコミュニケーション能力の向上を図っている。 ・季節の行事や製作活動、体験活動など多様なプログラムを実施し、子どもたちの興味・関心を広げる機会を提供している。	・運動療育では楽しみながら成功体験を積み重ねられるよう、個々の能力に応じて何度を調整している。 ・活動の見通しが持てるように視覚支援やスケジュールを活用し、安心して参加できるように配慮している。 ・保護者への活動の様子を積極的に発信し、家庭と連携しながら成長を支援している。	・運動療育や活動プログラムのさらなる充実を図るとともに、職員の専門性向上のための研修を継続して実施する。また、保護者や関係機関との連携を強化し、より質の高い支援の提供に努める。
2	・保育士や児童指導員に加え、専門職員を配置し、多角的な視点から児童一人一人の発達や特性に応じた支援を行っている。 ・専門的な知識や技術を活かし個々の課題やニーズに合わせた支援を提供している。	・一人一人に合わせた個別支援に対応できるようスケジュールを調整し、支援後の内容やフィードバックを行い職員間で支援の方向性を共有している。 ・保護者と支援内容を共有し、家庭や園・小学校でのお困りごとの相談やアドバイスを定期的に行っている。	・専門職の配置体制を継続的に整え、より質の高い支援の提供に努める。 ・研修や事例検討を通して職員の専門性向上を図り、支援の質の向上に繋げる。 ・専門職と他職種との連携を強化し、1人ひとりに適した支援体制の充実を目指す。
3	・一人一人の学習状況や発達段階に応じた学習支援を行っている。 ・学習習慣の定着を目指し、集中して取り組める環境づくりに努めている。 ・学習への意欲や達成感を大切に、小さな成功体験を積み重ねられるよう支援している。	・学習時間を設定し、見通しを持って取り組めるよう支援している。 ・周囲が気にならないよう個別スペースや間仕切りを活用し、個々に合わせた環境を提供している。 ・個々の学習能力に合わせた学習教材を提供し、自信や意欲の向上に努めている。	・学校や家庭との情報共有を行い、一貫した学習支援に繋げる。 ・学習だけでなく、集中力や自己管理能力の向上につながる支援を充実させる。 ・個々の学習課題に応じた教材や支援方法の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動スペースが限られているため、集団活動や運動療育の内容によっては十分な活動環境の確保が難しい場合がある。 ・りようにんずうや活動内容によっては、スペースを有効活用するための工夫が必要となる。	・施設の面積に限りがあり、利用児童数や活動内容によっては十分な活動スペースの覚悟が難しい。 ・運動療育や集団活動を実施する際に常に工夫が必要となっている。	・活動内容やグループ編成を工夫し、限られたスペースでも安全かつ効果的な療育が行えるよう努める。 ・公園や地域施設などの社会資源を活用し、身体を動かす活動の機会を確保する。 ・活動内容に応じて部屋を区分けし、集中しやすい環境を整備する。
2	・職員の勤務時間が異なるため、支援内容や児童の様子について十分な情報共有が難しい場合がある。 ・職員間で直接引継ぎを行う機会が限られ、支援の統一性に課題が生じることがある。	・職員の勤務時間が異なるため、情報共有や申し送りの時間確保が難しく、支援内容の統一に課題がある。	・連絡ノートやICTツールを活用し、情報共有の仕組みを強化する。 ・定期的な職員会議やケース検討会を実施し、支援方法の共有を図る。
3	・送迎を担当する職員が限られているため、送迎ルートや時間調整に負担が集中しやすい。 ・利用希望時間や送迎エリアによっては柔軟な対応が難しい場合がある。	・送迎業務に従事できる職員が限られているため人員配置に余裕がない。 ・送迎時間が利用時の来所・退所時間に集中しやすくm職員の負担が大きくなっている。 ・送迎範囲が広く、移動時間を要するため効率的な運航が難しい。 ・支援業務と送迎業務を兼務しているため、人員買収が難しい状況がある。	・効率的な送迎ルートの見直しを行い、送迎時間の短縮と安全確保に努める。 ・送迎業務を担当できる職員の育成を進め、対応できる人員の確保を図る。 ・保護者と連携し、送迎時間の調整や効率化に取り組む。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 キッズエール犬山Ⅱ

公表日 令和8年 6月 5日

利用児童数 17名

回収数 11

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9			2		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9			2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	2	1	2	・階段が急なのが気になる。	・階段についてご心配をおかけしております。児童の移動時には職員が付き添いや見守りを行い、安全確保に努めております。また、日頃から階段の利用方法について声掛けを行い、事故防止に取り組んでおります、今後も安全確認を徹底し、安心してご利用いただける環境づくりに努めてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10			1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7		1	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5		2	4		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	11					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	1	7		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10			1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11					
	29	事業所の支援に満足していますか。	11					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年 6月 5日				
事業所名		キッズエール犬山Ⅱ				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2	・子どもが課題に取り組んでいる時は、なるべく他児が邪魔をしないように配慮している。 ・運動療育が狭くてできない。未満児の安全のために部屋を分けている点は良い。 ・時間帯や人数によってグループ分けをする。	・個別支援、グループ支援に合わせた環境の調整。使用していない空間や職員ロッカー室などを有効活用できるよう工夫していきます。 ・運動療育を行う場合の環境調整を考える。 ・限られた空間をいかに有効活用できるか早急にMTし、出来ることを実行していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	・人数が足りない日、足りない時間と潤っている日、時間の差が激しい。	・パート職員のシフトの調整に努めます。 ・送迎時における待機要員の確保に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	3	・安全面について話し合っているが、まだ危険なところ、改善されていないところもたくさんある。 ・日課の明確化、設備の使いやすさなど、改善の余地はあると思う。 ・パーテーション、間仕切りなどは工夫していると思う。 ・改善途中ではあると思うので、よりよい環境になるよう皆さんと相談しながら試行錯誤していきたい。	・安全面については都度改善し、共有していきます。 ・ヒヤリハットを確認し、再発防止に努めます。 ・限られた空間の有効活用を職員で都度考え共有しながら、パーテーションを活用し試行錯誤しながら調整していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	2	・手洗い場の足場、もう少し安定性のあるものに改善してほしい。	・安定性のある足場の設置を検討し実行致します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	3	・完全に刺激をシャットアウトするスペースがあるとよい。 ・子どもたちと距離を置いているが、職員ロッカーのスペース有効活用できたらいいと思う。	・事務室内に個別スペースを設置できるよう環境調整に努めます。 ・全体の環境を見直し、支援ファーストでの環境構成を考え実行していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	2		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	2		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	2		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0		

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	2		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	2	・パートなのでわからない。	・パート職員も含めて支援の内容を共有できる時間を作ります。 ・スタッフ間の役割分担や支援内容について共有できる時間を必ず作ります。 ・teamsを活用していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	11	0		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	2		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	2		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0		

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	1		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	1		
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	1		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	2	・事業所の前の階段が危ない。	・手すりの設置、滑り止めシートの強化をして安全対策に努めます。 ・危険だと思ふ箇所を都度共有し、解決策を考え実行していきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	0		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズエール犬山Ⅱ			
○保護者評価実施期間	令和8年 5月 10日		～	令和8年 5月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	令和8年 5月 2日		～	令和8年 5月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者からの相談に丁寧に对应し、家庭との信頼関係を大切にしながら支援を行っている。	・送迎時に家庭でのお困りごとを訪ね、解決策や事業所での支援の方法を具体的に伝えるなどの家庭支援を行っている。 ・連絡ツールを活用し、利用児の成長やその日の様子を丁寧に伝えし、成長の喜びを共感している。	・定期的な面談や相談機械の充実を図り、保護者がより相談しやすい環境づくりと家庭支援の強化に努める。 ・連絡ツールを通して、日々の成長をより具体的に写真など用いながらお伝えしていく。 ・保護者の悩みに共感するだけでなく、具体的な解決案や支援方法をお伝えし寄り添った家庭支援に努める。
2	・保護者との情報共有を積極的に行い、安心して利用できる環境づくりに努めている。	・活動内容や行事予定を定期的に保護者へ発信し、事業所での様子をわかりやすく伝えている。 ・保護者との信頼関係の構築に力を入れ、連携しながら支援を行っている。	・保護者アンケートや面談を通して意見や要望を把握し、運営や支援の改善に活かす。 ・保護者との交流や相談の機械を増やし、連携の強化を図る。 ・家庭と事業所が共通の目標を持って支援できるよう、情報共有の充実にも努める。
3	・専門性のある人員配置により、個々の発達特性や課題に応じた支援を提供できる体制を整えている。	・専門性を有する職員（心理士・保育士・言語聴覚士・教員免許保有者や児童指導員といった多数の専門職員）が多く在籍し、療育・支援に携わっている。 ・子ども一人一人に丁寧に寄り添い、保護者のニーズを理解し共有しながら支援に努めている。	・研修への参加や事例検討を通して職員の専門性向上を図る。 ・専門職員の連携を強化し、より効果的な支援体制の構築を目指す。 ・利用児童のニーズに応じた人員配置や専門職の確保に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動スペースが限られており、集団活動や運動活動の際に十分な空間を確保しにくい。 ・建物の構造上、階段の傾斜が急であり、利用児童や来所者にとって安全面への配慮が必要である。	・低年齢児に合わせた環境スペースを確保しているため、運動等活動スペースが限られている。 ・利用児童数と職員の増加による人口密度が高まった。 ・学習スペースを間仕切りで確保しているため、活動空間が狭くなっていること。 ・傾斜もあり狭いため、緊急時の対応が厳しい。また、鉄製のため雨や雪などにより滑りやすい。	・活動内容に応じて部屋のレイアウトを工夫し、空間を有効活用する。 ・少人数グループでの活動や時間差での活動を取り入れる。 ・屋外活動や地域資源を活用し、運動機械や活動の幅を広げる。 ・必要に応じて安全マットや滑り止め等の設置を検討し、安全対策を強化する。
2	・地域資源の活用や地域との交流機会が十分に確保できていない。	・日々の療育では「本人支援」に重点を置いて支援をしているため、地域支援および地域連携までは視野を広げられていない。 ・図書館はよく利用しているが、その他の地域資源に関する情報収集が不足している。	・地域の公共施設や公園、図書館などの活用を積極的に進める。 ・地域行事やイベントへの参加機会を設ける。 ・関係機関との情報交換や連携を強化し、地域との繋がりを深める。
3	・情報共有の機会や方法が十分でなく、支援の統一性に課題がある。	・職員ごとに勤務時間や勤務日が異なり、全員そろって情報共有を行う機会が限られている。 ・申し送りやケース会議の時間を十分に確保することが難しい。 ・ICTルールをうまく活用できていない。	・連絡ノートやICTツールを活用し、情報共有の仕組みを整備する。 ・定期的な会議や申し送りの機会を設け、支援方針の共通理解を図る。 ・支援記録の充実を図り、勤務史観に関わらず必要な情報お確認できる体制を整える。